

畜産クラスター事業のポイント



事業見直しのポイント

- 従来の収益力の強化への支援に加え、新たに持続性向上タイプ（農業構造転換集中対策）を追加
- 酪農への支援を再開（搾乳牛舎の再開、機械の頭数制限撤廃）



持続性向上タイプ 新規

集中対策期間の特例！

中小規模の生産者、新規就農者、経営の継承者が活用しやすくなります!!

① 収益性の向上には直ちに結びつかない様々な取組も支援

国産飼料の生産・利用、雇用の創出、**新規就農・経営継承**、
アニマルウェルフェア、家畜衛生、野生鳥獣害防止対策
といった**様々な取組から選択して**成果目標を設定

② 施設の**補改修・中古機械**の導入を推進

施設：収益性向上の成果目標は不要（堆肥舎など非収益施設のみの改修も可）
機械：中古機械に限り3者見積もりは不要

③ ①の取組の実現に必要な施設・機械を**補助対象に追加**

車両消毒ゲート、野生動物侵入防止柵、飼料生産用ドローンなど

④ トラクターの導入に係る知事特認は不要

協議会内で支援チームを立ち上げればOK!
★家畜導入も支援



酪農の牛舎の支援再開

施設
整備

搾乳牛舎の申請受付を再開

※すべての搾乳牛舎整備の支援に適用

1頭当たり飼料作付面積が要件（北海道40a、都道府県10a）

※1 国産飼料購入分の面積換算も可

※2 都府県においては、給与飼料量の10%分を国産に置き換えることでも可

機械
導入

頭数制限を撤廃



建築コストの高騰への対応

1平米あたりの知事特認単価の引上げ（基準単価×1.3倍を1.5倍に!!）

※共同利用施設は1.8倍!!

例) 肉用牛舎 現行62千円 → 改定73千円 TMRセンターの飼料庫 現行89千円 → 改定126千円

持続性向上タイプの成果目標

分類	主な成果目標
1 環境	① 国産飼料利用量の5% (3%) 増 ※()は都府県 ② 堆肥販売量の5%以上の増加
2 地域経済・ 担い手	① 飼養管理のための給与等(人件費)の5%以上の増 ② 新規就農者・経営継承者への支援チームの構築と 年3回の支援会議の開催
3 AW・ 家畜衛生等	① AW畜産物の販売量と販売単価の5%増 ② 家畜疾病発生率の5%低減 ③ 野生鳥獣による被害面積の5%低減

成果目標の設定と取組の例

例1

和牛繁殖農家における家畜衛生の向上

成果目標 サルモネラ感染症の発生率の5%低減

取組 牛舎内や車両の消毒の徹底

→ 出入口に消毒ゲートの整備、消毒用噴霧機の導入

例2

既存牛舎を活用した酪農家の親子承継

成果目標 繙承支援チームの構築と、年3回の支援会議の開催

取組 牛舎内衛生と作業効率の向上による経営改善

→ バーンクリーナーの改修、換気口の整備

→ 牛と従業員の動線確保のための通路の改修

例3

国産粗飼料の単収向上

成果目標 国産飼料の生産量を5%増加。

取組 高品質な堆肥製造による粗飼料の単収の増加
→ 雨水流入防止を強化するための堆肥舎の改修